

令和3年度 和泉葛城山ブナ林事業計画

1	計画の趣旨	1
2	コアゾーンにおける調査	1
3	バッファゾーン等における調査及び保護・増殖活動	1
4	管理体制の確立・適正な利活用の促進	2
5	和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会及び 同ワーキングの開催	3

令和3年4月

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

1 計画の趣旨

令和3(2021)年度は、令和2(2020)年度に策定した「和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画」に基づき、コアゾーン、バッファゾーン植栽地での各種調査を行うとともに、ナラ枯れの実態調査及び対策の検討を行う。また、「和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画」の策定をテーマとしたシンポジウムを貝塚市内の会場で実施する。

2 コアゾーンにおける調査

(1) 天然下種更新モニタリング

令和2(2020)年結実種子による天然下種更新が見られた場合、その後の生育の経過を把握するため、モニタリング調査を実施する。

(2) 花芽・結実調査

種子生産の豊凶周期を把握するため、3月～4月にかけて花芽調査、9月に種子観察調査、11月に殻斗調査を実施する。

(3) 種子調査

令和2(2020)年度と同じ4プロットで、各プロットにつき種子トラップを5基設置し、コアゾーン内の種子の生産、種子病原菌の状況、散布の状況および種子健全度の経年変化を把握するための種子採取調査を行う。採取した種子は苗を作るなど有効活用を図る。また、種子豊凶の判定を行うため、花芽・結実の観察結果を反映していく。

(4) 生育環境調査

コアゾーン内の生育環境の通年調査を行うため、令和元年度に設置した気象観測器(全2カ所)を継続して通年測定を行い、継続して長期間の森林生育環境データを取得する。また、データ分析手法を確立する。

(5) 哺乳類モニタリング

気象観測器の支持柱に自動撮影カメラを設置し、哺乳類のモニタリング調査を行う。

(6) ナラ枯れ実態調査

ナラ枯れ被害状況把握を迅速に行い、対応策を検討する。

3 バッファゾーン等における調査及び保護・増殖活動

(1) 令和2年結実種子の育苗

播種した令和2(2020)年結実種子の育苗を行い、種子発芽など成長の過程を記録する。また、平成26(2014)年の結実種子から育てた苗を適切な時期にバッファゾーン内に植樹する。

(2) ブナ若木の育成

バッファゾーン植栽地において、植栽したブナの生育環境を改善するため枝払い、刈払い、清掃などの維持管理を行う。

(3) 生育環境調査

気象観測器(全7カ所)により通年測定を行い、将来にわたり継続して長期間の森林生育環境データを取得する。

(4) 森林保全整備

立木の健全な育成による森林被害の未然防止、林内照度の上昇による公益的機能の増進、ブナとの混交林への移行を目的に、森林保全整備を行う。また、ナラ枯れ被害状況を調査し、必要な対策を講じる。

(5) 植栽ブナ、天然ブナ全数調査に向けた準備

植栽ブナ、天然ブナの全数調査の実施に向け、個体番号表示の保全を実施する。

(6) 哺乳類モニタリング

気象観測器の支持柱に自動撮影カメラを設置し、哺乳類のモニタリング調査を行う。

(7) その他

公立大学法人大阪大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻 准教授 中村彰宏准教授が行う以下の調査研究の円滑な実施に向け支援を行う。

- ①ドローン画像を活用したブナ個体データベースの作成
- ②ドローンを用いた開花量評価のための基礎的研究

4 管理体制の確立・適正な利活用の促進

(1) 既存資料のアーカイブ化

トラスト協会ホームページのリニューアルにあわせて、和泉葛城山ブナ林の保護増殖活動に関するページの充実を図り、主な既存資料のPDFファイルを掲載する。また、今後の主な調査研究・活動の成果、事業計画などについても適宜掲載していく仕組みを構築する。

(2) シンポジウムの開催

保護増殖事業の成果や10ヵ年計画の主旨を広く市民に普及啓発しブナ林保全への参画を促すことを目的としたシンポジウムを開催する。

(3) 利用ルールの検討と普及啓発

類似地区における保全利用や取組み等の事例収集等により利用ルールのあり方について検討を行うとともに、行政のホームページやシンポジウムの機会を活用して、ブナ林を周知し、利用マナーについての呼びかけを行う。また、地元町会・自治会と連携し、定期的な巡

回を実施する。

5 和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会及び同ワーキングの開催

令和3年度は、2回程度の保護増殖検討委員会と、各種調査及び保護・増殖活動の進捗および成果の確認を行うため、適宜のワーキンググループの開催を予定する。

以上